

**広島市・海田町合併建設計画素案  
序論・基本構想（案）**

# 目 次

第1	序論	1
1	合併の必要性	1
(1)	日常生活圏の一体化への対応	1
(2)	広島都市圏東部における拠点づくりの推進	1
(3)	地方分権の推進と行財政基盤の強化	2
2	計画の概要	3
(1)	計画の趣旨	3
(2)	計画の構成	3
(3)	計画の期間	3
3	広島市と海田町の概況	4
(1)	位置と地勢	4
(2)	人口と世帯	5
第2	基本構想	9
1	海田地区の広島市における位置付けと役割	9
2	まちづくりの目標と方向	10
(1)	活力と魅力を備えた東部の拠点にふさわしいまちづくり	10
(2)	水と緑と文化が彩る快適で潤いのあるまちづくり	10
(3)	ふれあいあふれる健康で安心して暮らせるまちづくり	10
3	土地利用構想	11
(1)	都市構造の形成方針	11
(2)	地域別整備の方針	13
第3	事業計画	
第4	財政計画	

## 第1 序 論

### 1 合併の必要性

広島市においては、日常生活面で特につながり強い地域は、一つの行政体として一元的な都市経営と行政サービスを提供することが地域の発展と住民福祉の向上に寄与するとの観点から、昭和45年（1970年）海田町を含む周辺19か町村に合併を呼びかけて以来、これまでに14か町村との合併を実現してきました。

広島市と海田町は、連たんした市街地を形成し、日常生活面においても密接な関係にあることから、両市町の合併を重要な課題として位置付け、共同で調査・研究などを行ってきました。

広島市と海田町が、地域全体の課題に的確かつ効果的に対応し、地域社会の発展と住民福祉の向上を図っていくに当たり、合併を行う必要性は次のとおりです。

#### (1) 日常生活圏の一体化への対応

今日までの社会経済の発展や、道路・交通網の整備により、海田町とその周辺は都市化が進み、日常生活圏は行政区域の枠を越えて広がっています。

その結果、広島市と海田町は、実質的には既に一つの都市としての様相を呈しています。

このような状況にもかかわらず、行政体が異なることにより、公共施設の適正な配置や効果的な地域整備、土地利用が行いにくいこと、福祉や保健などの行政サービスに相違があること、コミュニティ活動の連携が図りにくいことなどの問題が生じています。

このため、合併によって、政令指定都市である広島市の高次都市機能を十分に生かしながら、一体的、計画的なまちづくりを進めるとともに、福祉、環境、衛生、教育など住民に身近な行政サービスの充実を図っていく必要があります。

#### (2) 広島都市圏東部における拠点づくりの推進

海田町は、西国街道の宿場町として栄え、広島都市圏東部の政治・経済・文化の中心地、交通の要衝として発展してきました。

今日においても、広島都市圏東部の重要な拠点として、国・県等の公共サービス機関が配置され、また、JR山陽本線・呉線と国道2号・31号が分岐し、広島市と東広

島市や呉市との交通の中継地となっており、広島都市圏東部の発展に大きな影響を与えています。

このため、広島市東部地区連続立体交差事業や拠点地区にふさわしい駅周辺整備、道路・交通網等をはじめとする都市基盤の整備を、広島市と海田町が一つの行政体となって推進し、より一層の拠点機能の充実を図るなど、一体的なまちづくりを進めていく必要があります。

### (3) 地方分権の推進と行財政基盤の強化

地方分権の推進に伴い、地方自治体は、自らの責任と判断で行政の施策・サービス内容を決定し、実施することが求められています。

このことは、地方自治体が自らの考えで個性豊かなまちづくりを推進する良い機会とも言えますが、これを生かすには、行政体制を一層強化する必要があります。

また、国、地方ともに非常に厳しい財政状況にある中で、少子・高齢化、国際化、情報化、環境対策など複雑・高度化する行政課題や、福祉、保健、医療など多様化する住民ニーズへの的確な対応も求められています。

これらの情勢を踏まえ、今後とも、行政サービスの充実を図り、より快適で利便性に富んだ生活環境を提供していくため、海田町においては、合併によって、行財政基盤を強化するとともに、政令指定都市という大きな枠組みの中で、これまで以上に効率的な行財政運営を行いながら、主体的、自立的かつ迅速にまちづくりを展開していく必要があります。

## 2 計画の概要

### (1) 計画の趣旨

この計画は、安芸郡海田町を廃し、その区域を広島市（安芸区）に編入することに伴い、編入後の海田地区（ ）のまちづくりの目標や方向などを基本構想として定めるとともに、これに基づく事業計画を作成し、その実現により、速やかに広島市との一体化を促進して、地域の発展と住民福祉の向上を図ろうとするものです。

### (2) 計画の構成

この計画は、基本構想、事業計画及び財政計画で構成します。

### (3) 計画の期間

本計画の期間は、平成 16 年度（2004 年度）から平成 25 年度（2013 年度）までの 10 年間とします。

( ) この計画の「海田地区」とは、合併対象である海田町の区域をいう。

### 3 広島市と海田町の概況

#### (1) 位置と地勢

両市町は、広島県の西部に位置し、広島湾に面しています。

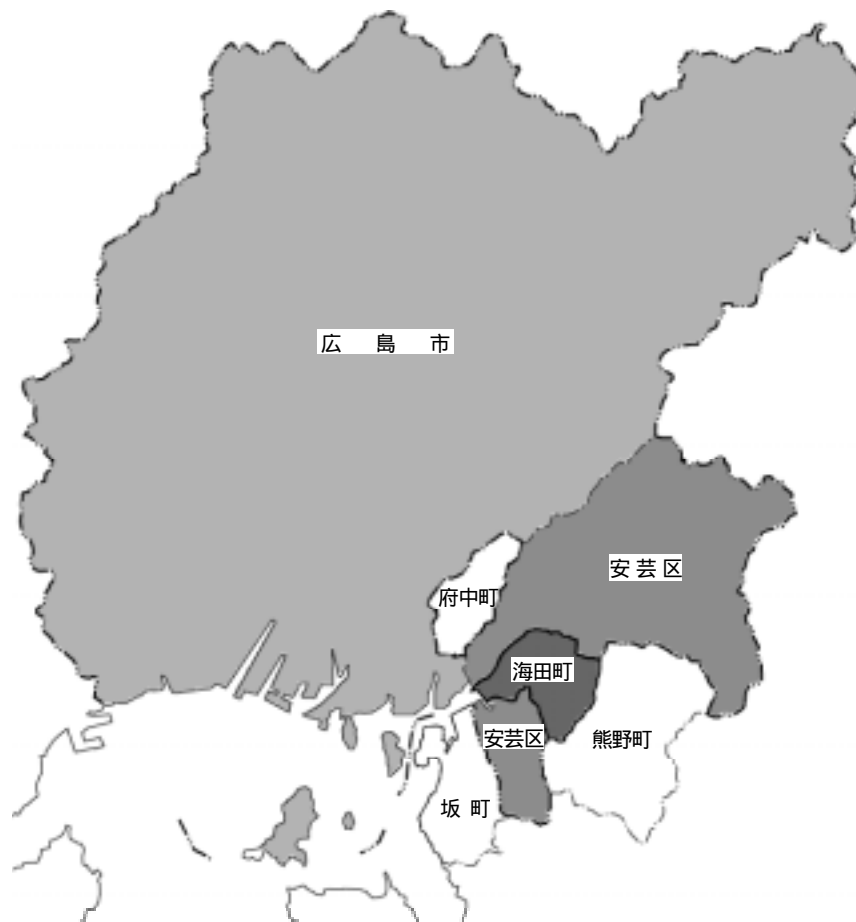
海田町は、広島市の都心から東方へ約 6 km に位置し、北から西・南にかけては広島市に囲まれ、東は熊野町と接しています。

両市町の面積は、広島市が 741.75 km<sup>2</sup> (うち安芸区 94.02 km<sup>2</sup>)、海田町が 13.81 km<sup>2</sup> で合計 755.56 km<sup>2</sup> (安芸区と海田町の合計 107.83 km<sup>2</sup>) となっています。

両市町の地勢については、平地は、河川延長約 100 km を有している太田川が形成した広島平野を中心に、東側は瀬野川に沿った海田平野、西側は八幡川に沿った五日市低地が連なり、山地は、全面積の 7 割を超えています。

海田町は、町域の南東側の熊野町との境界付近に、城山など標高 500～600m 前後の山系が位置し、北西側の広島市との境界付近に、日浦山 (標高 345.9m) を中心とする山地があり、この 2 つの山地・山系に挟まれる形で瀬野川が流れ、その流域に平坦地が帯状に広がっています。

#### 位置図



## (2) 人口と世帯

平成 12 年(2000 年)国勢調査によると、両市町合計の人口は 1,156,281 人、世帯数は 471,996 世帯、1 世帯当たりの人員は 2.45 人、このうち、広島市安芸区と海田町を合わせた人口は 105,477 人、世帯数は 38,841 世帯、1 世帯当たりの人員は 2.72 人となっています。

いずれにおいても、昭和 60 年(1985 年)以降、人口、世帯数は増加傾向、1 世帯当たりの人員は減少傾向にあり、核家族化の進行がうかがえます。

両市町合計の年齢別人口は、年少人口(0~14 歳)が 178,100 人、生産年齢人口(15~64 歳)が 812,770 人、老年人口(65 歳以上)が 163,907 人で、その構成比は、それぞれ 15.4%、70.3%、14.2%となっています。

また、安芸区と海田町を合わせた年齢別人口は、年少人口(0~14 歳)が 17,110 人、生産年齢人口(15~64 歳)が 73,981 人、老年人口(65 歳以上)が 14,288 人で、その構成比は、それぞれ 16.2%、70.1%、13.5%となっています。

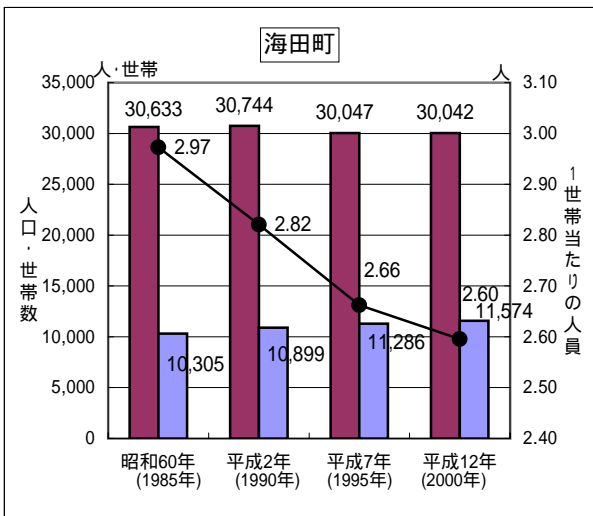
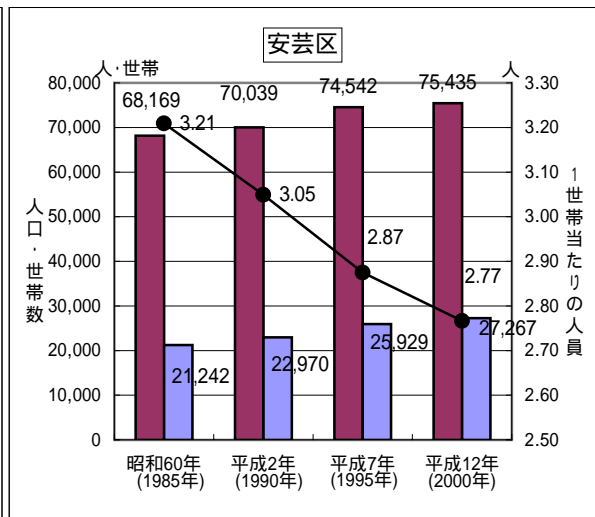
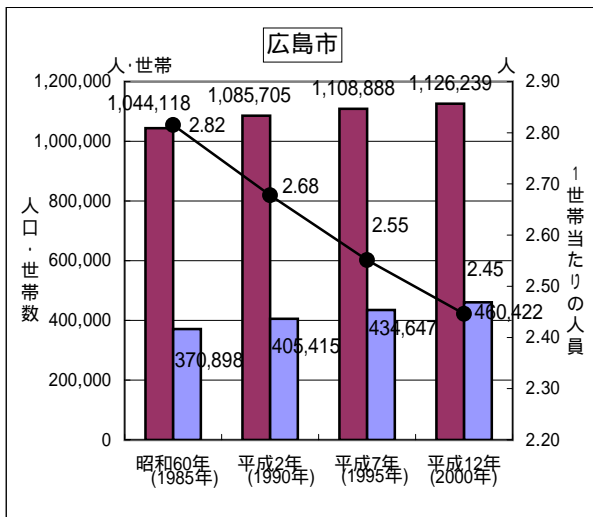
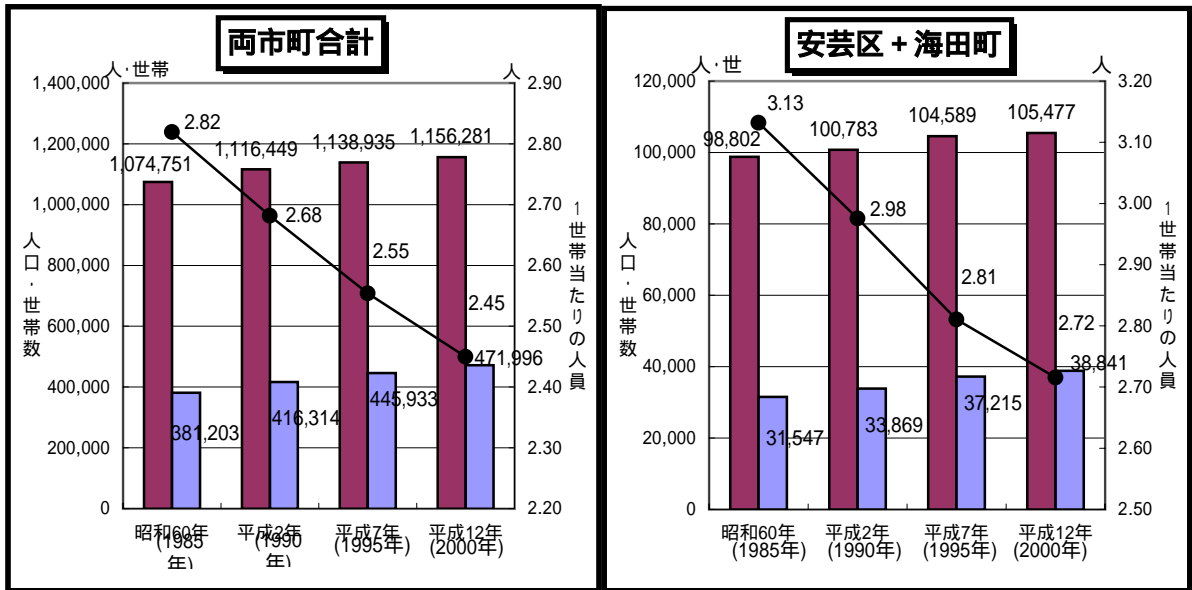
いずれにおいても、昭和 60 年(1985 年)以降、年少人口(0~14 歳)は減少傾向、老年人口(65 歳以上)は増加傾向にあり、高齢化が進んでいます。

両市町合計の就業者 580,815 人を産業分類別にみると、第 1 次産業 7,487 人、第 2 次産業 141,579 人、第 3 次産業 421,506 人で、その構成比は、それぞれ 1.3%、24.4%、72.6%となっています。

また、安芸区と海田町を合わせた就業者 53,548 人を産業分類別にみると、第 1 次産業 787 人、第 2 次産業 17,075 人、第 3 次産業 35,254 人で、その構成比は、それぞれ 1.5%、31.9%、65.8%となっています。

いずれにおいても、昭和 60 年(1985 年)以降、第 1 次産業就業者、第 2 次産業就業者は減少傾向、第 3 次産業就業者は増加傾向にあり、経済のサービス化がうかがえます。

人口・世帯数の推移

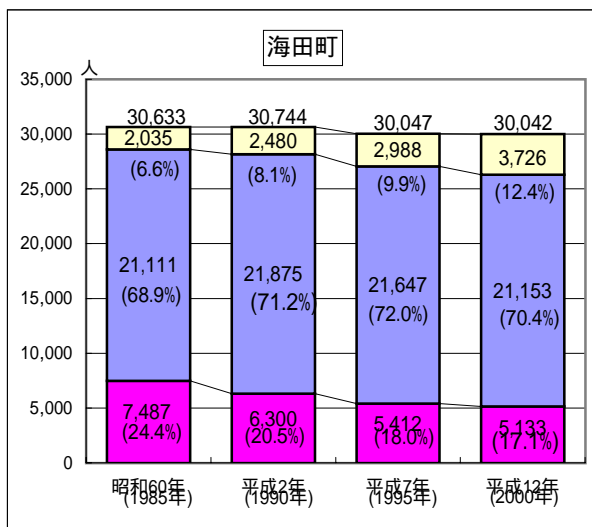
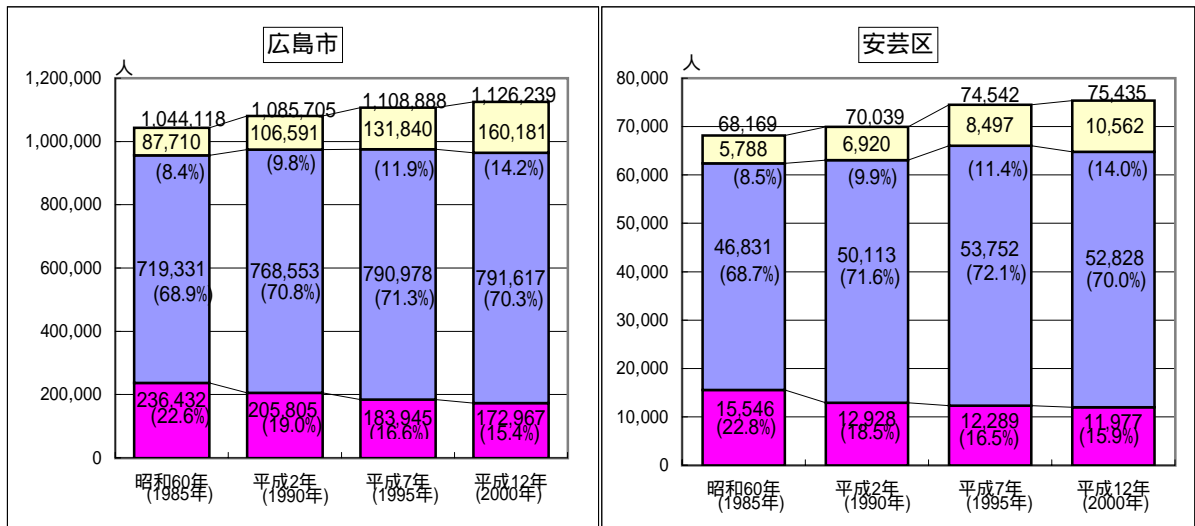
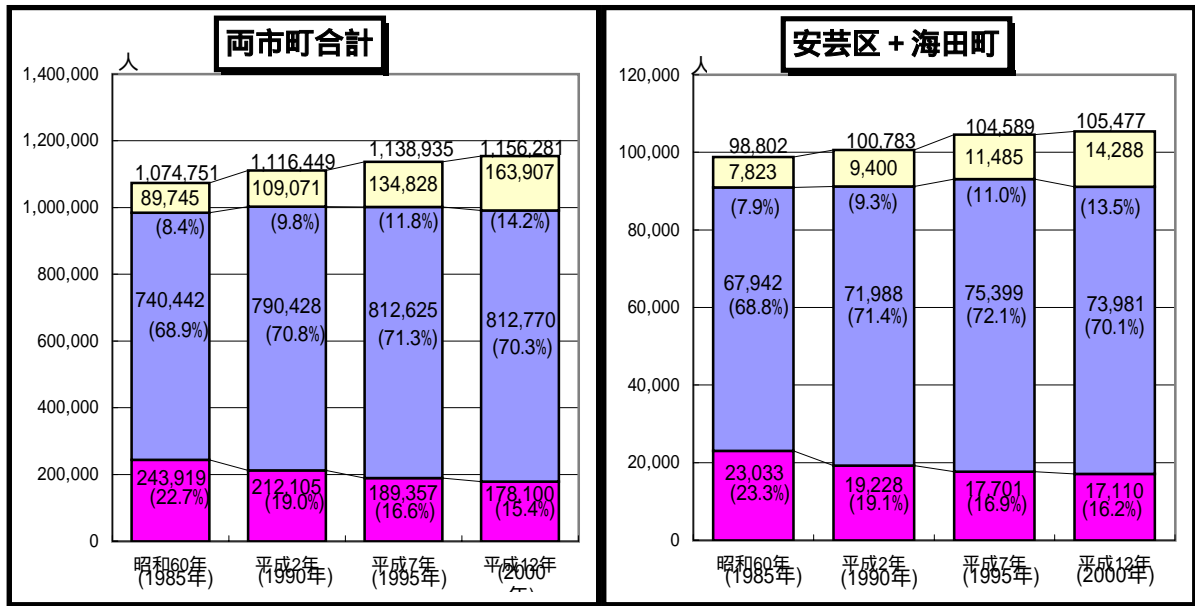


人口  
 世帯数  
 1世帯当たりの人員

資料: 国勢調査



年齢3区分別人口の推移

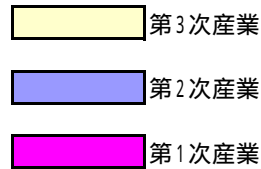
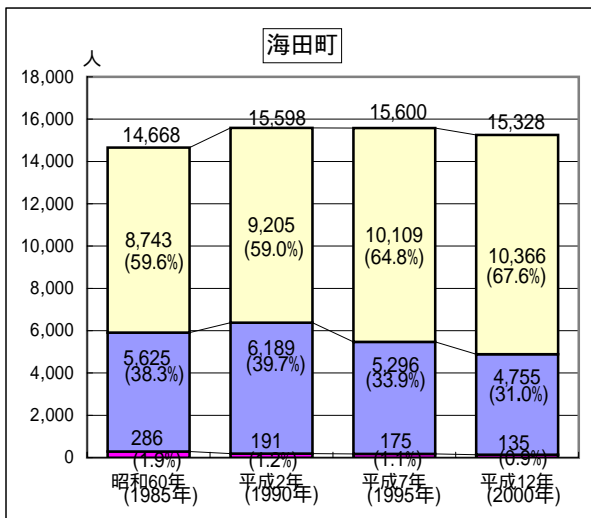
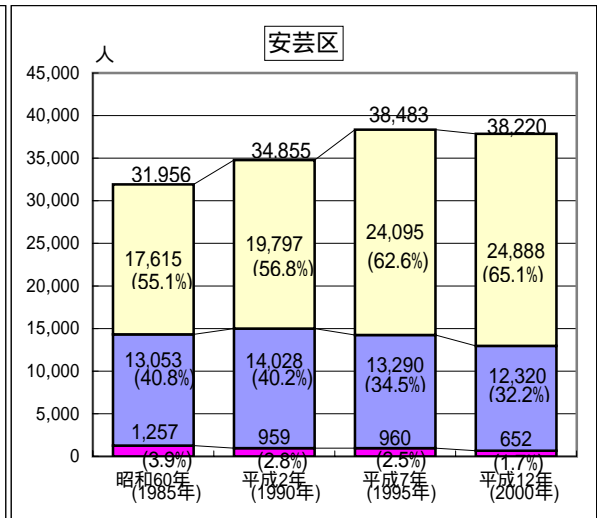
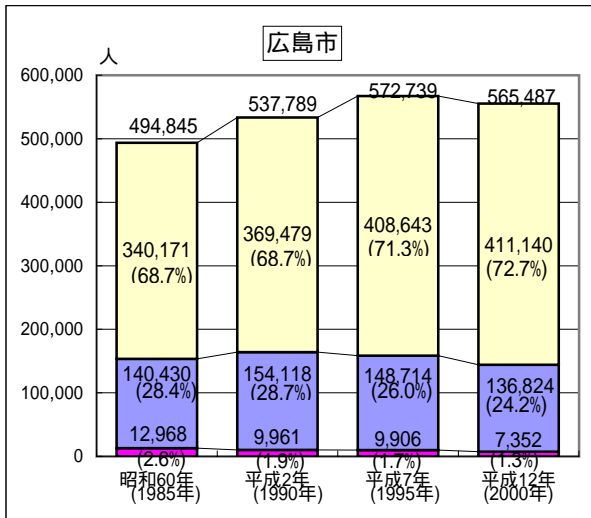
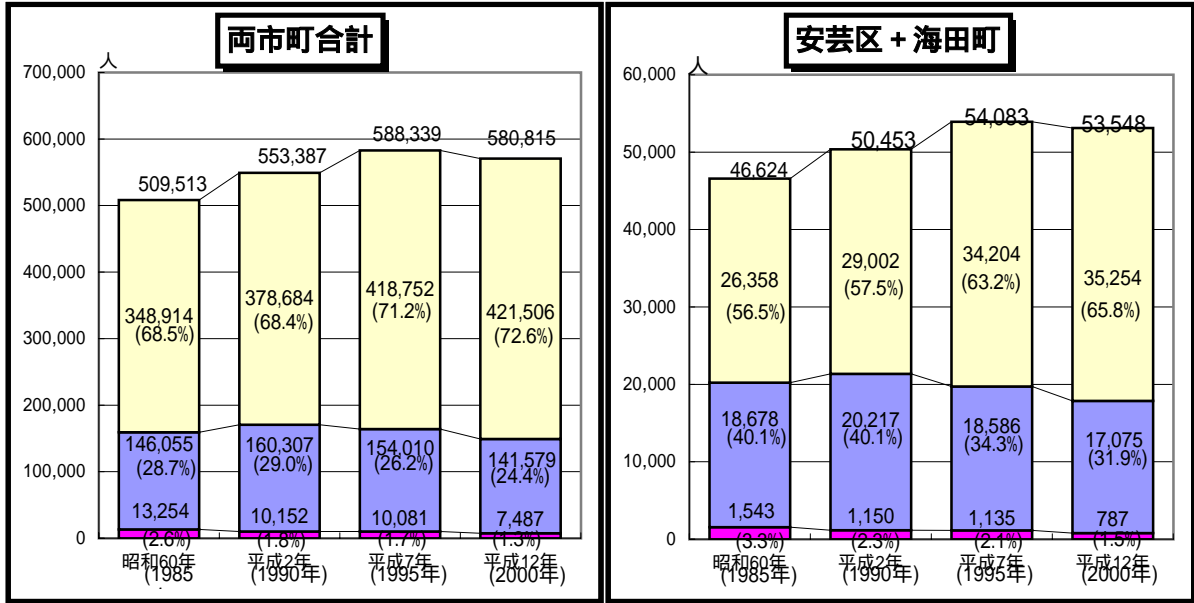


- 老年人口(65歳以上)
- 生産年齢人口(15~64歳)
- 年少人口(0~14歳)

資料：国勢調査

注：総人口は年齢不詳を含む。  
( )は構成比を表す。

産業別就業者数の推移



資料：国勢調査  
 注：総人口は分類不能を含む。  
 ( )は構成比を表す。

## 第2 基本構想

### 1 海田地区の広島市における位置付けと役割

広島市は、高度経済成長の中で都市機能の集積を図り、また、周辺町村との合併により市域を拡大し、昭和55年(1980年)には全国で10番目の政令指定都市に移行するとともに、平成6年(1994年)にはアジア競技大会を成功させるなど、中四国地方の経済、文化、行政の中心である地方中枢都市として発展を続けています。

一方、海田地区は、鉄道と幹線道路の結節点としての立地条件から、生活サービス機能や産業、行政機関が集積し、広島都市圏東部の中心として発展してきました。

また、海田地区は、地理的にみて広島市安芸区の中央に位置しているだけでなく、日常生活面においても広島市とつながりが非常に強く、広島市と一体の都市としての様相を呈しています。

こうしたことから、海田地区は、今後とも、市街地の整備による都市機能の強化と、幹線道路の沿道などにおける計画的な土地利用や魅力ある都市空間の形成などを通じて、広島都市圏東部の拠点としての役割を担っていくことが求められます。

また、交通の利便性、生活サービス機能の集積、瀬野川などの豊かな自然といった海田地区の特性を生かした良好な居住の場を提供していく役割も担っていきます。

## 2 まちづくりの目標と方向

広島都市圏東部の拠点づくりと良好な居住の場の提供を目標とし、第3次海田町総合基本計画の理念を継承し、第4次広島市基本計画との整合を図りつつ、次の3つを海田地区のまちづくりの方向として掲げます。

### (1) 活力と魅力を備えた東部の拠点にふさわしいまちづくり

海田地区は、鉄道と幹線道路の結節点としての立地条件から、都市機能が集積し、広島都市圏東部の中心として発展してきました。

こうした特性を生かし、海田地区、さらには安芸区全体の活力と魅力を高める都市機能の充実・強化と都市基盤の整備に取り組み、広島都市圏東部の拠点にふさわしいまちづくりを進めます。

### (2) 水と緑と文化が彩る快適で潤いのあるまちづくり

海田地区は、豊富な自然資源と数多くの文化資源に恵まれています。

こうした特性を生かし、自然と触れ合うことのできる水と緑を生かしたまちづくりや、環境にやさしいまちづくりを進めます。

また、潤いのある多彩な環境と生活空間の形成に取り組み、住んでみたい、住み続けたいまちづくりを進めます。

### (3) ふれあいあふれる健康で安心して暮らせるまちづくり

海田地区は、一人ひとりの参加と連携により、ふれあいあふれる地域社会づくりを進めてきました。

こうした地域の特性やコミュニティのつながりなどを生かしながら、日常生活の安全の確保を図るとともに、健康づくりや福祉のまちづくりに取り組み、ふれあいと交流に満ちた、健康で安心して暮らせるまちづくりを進めます。

### 3 土地利用構想

海田地区の魅力と活力を高め、都市の均衡ある発展を図るため、既存の都市機能の集積や立地性を踏まえるとともに、豊かな自然資源を有効に活用し、次の方針に基づいて土地利用を総合的かつ計画的に推進していきます。

#### (1) 都市構造の形成方針

広域的な連携や機能分担に配慮しながら、都市機能の充実・強化を図り、魅力ある都市空間を形成するため、都市軸や拠点地区の形成を促進していきます。

#### ア 都市軸の形成促進

都市軸は、道路、鉄軌道などの交通基盤に沿って連続する空間です。

周辺地域と連携し、海田地区の都市構造を支える都市軸として、第4次広島市基本計画において設定されている東西連携軸、東放射軸に加え、東西連携軸を安芸区矢野地区へ延長した新たな都市軸を設定します。

#### 東西連携軸及びこれを延長する新たな都市軸

都心から海田・船越地区をつなぐ東西連携軸に続き、国道31号、JR呉線に沿って安芸区矢野地区へ延長した空間を新たな都市軸とし、この都市軸において、海田市駅周辺地区の整備、広島市東部地区連続立体交差事業と合わせた市街地整備や道路整備などにより、商業・業務機能などの拡充を図るとともに、安全で快適な歩行者空間の確保や潤いのある都市景観の形成を進めます。

#### 東放射軸

海田地区を東西に走り、東は安芸区瀬野地区、西は南区へつながる、広島南道路、東広島バイパス、国道2号、JR山陽本線に沿って連続する空間である東放射軸において、広島市東部地区連続立体交差事業と合わせた市街地整備や道路整備などにより、商業・サービス機能、都市型居住などを誘導し、機能的で魅力のある都市空間の形成を進めます。

## イ 拠点地区の形成促進

拠点地区として、地域拠点、生活中心を設定します。

### 地域拠点

地域拠点は、日常的な都市サービスを提供するための都市機能の集積状況や交通の利便性などの面で拠点性を有する地区です。

安芸区役所周辺から海田市駅周辺に至る地域を地域拠点とし、商業・業務、交通、情報機能などの高次化・複合化とともに、総合的な生活サービス機能や居住機能の整備を促進し、拠点性の向上に努めます。

### 生活中心

生活中心は、日常生活に身近な生活関連サービス施設やコミュニティ施設が立地し、生活や交流の中心となる地区です。

曾田・寺迫周辺を生活中心とし、既存の公共施設などを活用するとともに、東広島バイパス、国道2号、JR山陽本線に沿って連続する空間の形成に対応し、商業・サービス機能の誘導を図ります。

## (2) 地域別整備の方針

海田地区を土地利用や機能の配置状況などの特性に応じて、都市機能整備・産業活動ゾーン、居住ゾーン、自然緑地ゾーン、水域ゾーンの4つに区分し、それぞれの個性を生かした地域整備を推進します。

### 都市機能整備・産業活動ゾーン

海田市駅周辺、国道31号沿線などの商業・業務地、臨海部や曾田、畝二丁目を中心とした既存の工業地などを都市機能整備・産業活動ゾーンに位置付け、交通結節点としての立地条件を生かしながら、計画的な市街地整備による都市機能の充実・強化に努めるとともに、環境や産業活動などを考慮した土地の活用を図ります。

### 居住ゾーン

自然緑地ゾーンに包まれ、地域拠点や都市軸と連続する平地部や丘陵地等を居住ゾーンに位置付け、地域資源や地区の特性を生かしながら、安全で快適な居住の場の形成に努めます。

また、地域拠点とのつながりを確保し、各種都市機能を効率的に利用できるようにするとともに、人にやさしく回遊性のあるまちづくりをめざし、計画的なコミュニティ施設などの整備や既存施設の有効活用を図ります。

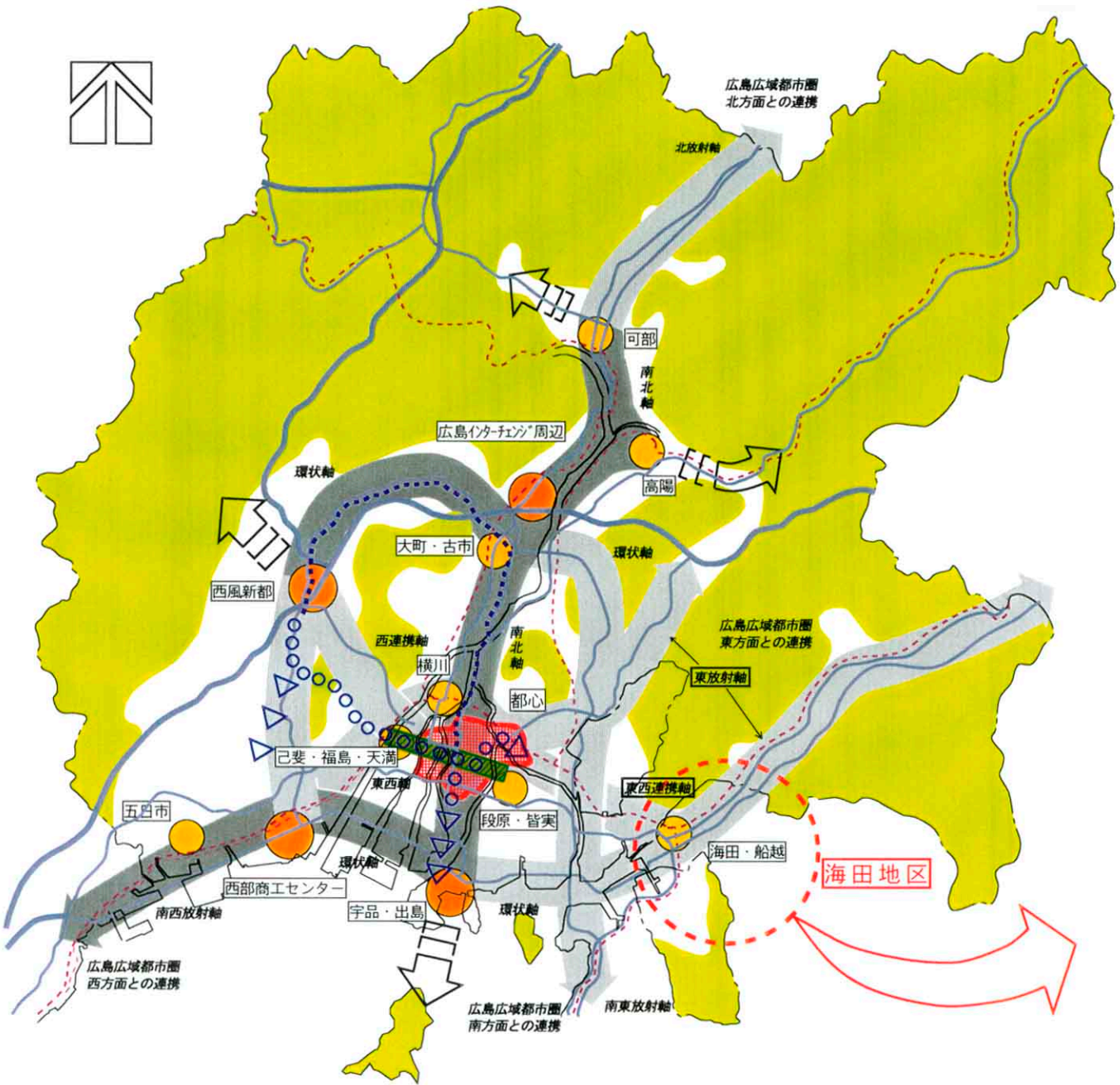
### 自然緑地ゾーン

北西側の日浦山一帯と、東側の城山などの山系を中心に広がる森林を自然緑地ゾーンに位置付け、健康づくりや野外レクリエーション、自然体験などの場としての活用を図ります。

### 水域ゾーン

瀬野川とその支流の三迫川、唐谷川及びその周辺を水域ゾーンに位置付け、河川環境の保全や生きもののすむ川づくり、水に親しむ場の確保に取り組むとともに、市街地と水辺が連携した潤いと親しみのある景観の形成を進めます。

# 広島市多心型都市づくりの推進方向図



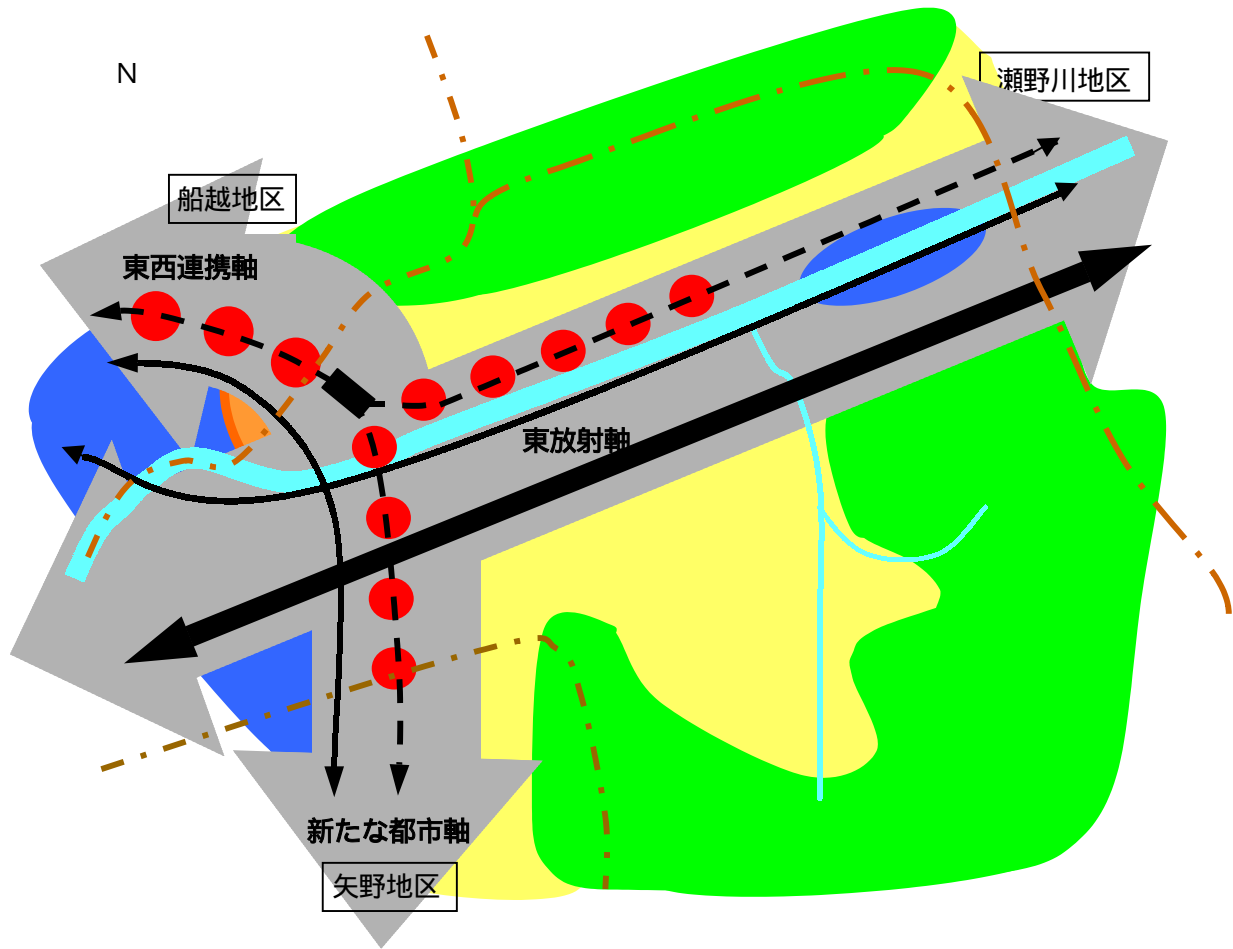
注：第4次広島市基本計画から引用








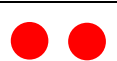
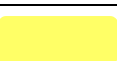
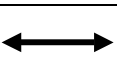


凡 例		役 割
都 心		高次都市機能の集積
広域拠点		4地区 都心の補完（高次都市機能を分担）
地域拠点		8地区 総合的な生活サービス拠点（行政・生活サービス、交通の拠点）
都市軸		シンボル型機能集積軸～東西軸
		機能集積軸～南北軸、環状軸（一部）、放射軸（一部）
鉄軌道		アストラムライン
		計 画
		発展方向
		JR線
		広島電鉄宮島線

※ 背景の黄緑色表示は、森林、農地等を示す。



# 海田地区土地利用構想図



凡 例			
	地域拠点（安芸区役所周辺から海田市駅周辺に至る地域）		水域ゾーン
	生活中心（曾田・寺迫周辺）		地区区分
	都市軸		JR 山陽本線、JR 呉線
	都市機能整備・産業活動ゾーン		広島市東部地区連続立体交差事業
	居住ゾーン		国道 2 号、国道 31 号、県道広島海田線
	自然緑地ゾーン		広島南道路、東広島バイパス